

梅原の子

Umehara Elementary School
梅原小学校 学校だより
令和6年10月25日号

令和6年度の2つの運動会

校長 埴岡 靖司

10月20日(日)、梅原小学校運動会・梅原校区市民運動会が開催されました。2つの運動会の開催に向けて、地域の願いと学校の願いが実現できるように、意見を出しあって進めました。これこそ、「令和の新しい運動会」だと、私は思っています。この2つの運動会では、子どもの2つの顔を見ることができました。

1つ目の顔は、学校としての運動会の顔です。演技する子どもの満面の笑顔。「自信をもって表現しているぞ!」「カー杯表現しているぞ!」という強い願いが伝わってきました。6年生は学校の柱として、1年生は、学校の末っ子として、それぞれの持ち味を発揮して、運動会を作り上げていました。

2つ目の顔は、地域の中で育つ子どもの顔です。地域の中では、子どもらしさ100%、とてもかわいい姿でした。湯飲みの水を運び終えた後、地域の方に声をかけてもらった時の満面の笑顔。力を合わせた玉入れで楽しむ様子。地域の中での安心感があふれ出ていました。

学校では、日々の取り組みの中では、「のれんに腕押し」のような感覚になることも多いです。しかし、2つの運動会のように、当日はすてきな姿でやってのける。今の子どもたちの特徴でもあり、強みでもあるでしょう。子どもの底力を実感する一面でした。

2つの運動会は、学校だけが子どもの活躍の場ではないことを、再認識させてくれました。学校で培った強みは、家庭や地域で発揮される。家庭や地域で培った強みは、学校で発揮される。様々な場で、子どもが育つ場面があることをあらためて実感しました。そして、子どもが育つ瞬間を見逃したくない、その瞬間をみなさんと喜び合いたい、強く思いました。すてきな機会いただき、ありがとうございました。

令和6年度 学力学習状況調査の結果について

<国語>漢字や文の組み立てなどの国語の知識についての理解は高いです。しかし、考えが伝わるように表現を工夫すること、人物像や物語の全体像を具体的に想像して表現することに、弱さがあります。今後、学校では、国語の学習以外にも考えを表現する機会を設けたり、物語の全体像をとらえたりする学習にも力を入れていきます。

<算数>算数のすべての分野において、知識についての理解は高いです。しかし、図形の空間の把握や割合の問題についての説明において、弱さがあります。今後、学校では、考え方の説明においては、式を使って説明する学習に重点をおいて指導します。また、問題文が長文であるため、内容の理解が進まないと考えます。そこで、日々の学習において、問題文の音読を、続けていきます。

<質問紙>どの質問においても、「強くそう思う」「そう思う」を合わせると100%に近くなりますが、「強くそう思う」と答えることができません。自分のことを厳しく判断している姿だと考えられます。今後、学校では、自信をもって言い切ることができるよう、様々な場で子どもの納得感がある活動をおこなっていきたいと考えています。また、自ら子どもが取り組みたいことを応援する活動もとりにいれていきます。

令和6年度文部科学省「学校安全ボランティア活動奨励賞」受賞

「梅原地域ふる里活性化協議会」が、「子供を守るために、通学時の保護・誘導や校内のパトロールをするなどの実践的なボランティア活動を行っている団体」として、文部科学省「学校安全ボランティア活動奨励賞」を受賞することとなりました。日々の見守りや通学路や学校周辺の除草などの環境整備にかかわって、長年尽力いただいたことに対する受賞です。地域の方は、日頃から学校のことを気にかけていただき、温かい言葉をいただいています。みなさんに支えられた学校であることを、とても誇りに思います。



6年生 演技の様子



市民運動会 玉入れの様子